

1 単元名 あきがいっぱい わくわくあきさがし

2 授業構成

(1) 単元の価値と魅力

生活科の目標は、「具体的な活動や体験を通して、自分と身近な人々、社会および自然とのかかわりに関心をもち、自分自身や自分の生活について考えさせるとともに、その過程において生活上に必要な習慣や技能を身に付けさせ、自立への基礎を養う。」である。

本単元は、学習指導要領の次の内容に位置づけられている。

- (5) 身近な自然を観察したり、季節や地域の行事にかかわる活動を行ったりなどして、四季の変化や季節によって生活の様子が変わることに関心を持ち、自分たちの生活を工夫したり楽しんだりできるようにする。
- (6) 身近な自然を利用したり、身近にあるものを使ったりなどして、遊びや遊びに使う物を工夫して作り、そのおもしろさや自然のふしぎさに関心を持ち、みんなで遊びを楽しむことができるようにする。

ここでは、身近な自然に目を向け、興味・関心をもって観察したり、季節や地域の行事にかかわる活動を行ったりして、四季の変化を体全体で感じ取り、季節によって生活の様子が変わることに関心を持ち、自分たちの生活を工夫したり楽しんだりできるようにすることをめざしている。身近な自然とかかわる活動を繰り返す中で、自然と一体になりながらその特徴や特性をとらえ、四季の変化や季節によって生活の様子が変わることに関心を持っていく。こうした活動から生まれた関心や気づきを大切に、振り返ったり交流したりする場を設け、それらの意味や価値を児童が自覚できるようにしていくことが、自分の生活を工夫したり楽しんだりすることにつながっていくと考える。

4月、入学したばかりの児童は学校探検をしながら、春みつけの活動を行った。学校に十分に慣れていない環境で、児童はそれぞれに楽しみながら春をみつけてきた。しかし、一人一人の活動にとどまり、気づきの交流や、集団で関連づけたり自覚した気づきとして質を高めたりする活動が十分にできていないのが現状であった。季節は春から夏に変わり、学校生活にも慣れてきた頃、自然の中では、春みつけの時にはいなかったバッタやカマキリの赤ちゃん、アリの卵などいろいろな虫を見つけることができた。また、生活の中での変化にも気付くことができた。今まで無自覚だった気づきが、個々の中で春と比べることにより自覚した気づきとなり、さらに交流する場を設けることで、一つ一つの気づきが「夏は暑い。」という関連づけられた気づきとなっていった。しかし、個々の気づきを関連させ一つにまとめていくことだけが、質の高まりではない。友達と気づきを交流する中で、自分自身の体験と関連づけて考えることができたり、今まで自分では考えもしなかった多面的な見方ができるようになったりすることも気づきの質の高まりであると考えられる。秋みつけは、春みつけと夏みつけの経験を通して、さらにいろいろな視点での気づきができると思われる。秋みつけの活動を通して、夏にみつけたバッタやカマキリが大きく成長をしていること、木々の葉が色づき、様々な実がなっていることなどの変化に気付くことができるだろう。また、生活の中では、運動会やお月見、稲刈り、いもほり、衣替えなど、季節ならではの行事も体験してきているはずである。友達の考えも受け入れつつ、自分の考えも話せるようになってきたこの時期にこそ、いろいろな気づきの質の高まりを展開できると考える。春や夏と比べて何が変わったのかについて、身の回りの自然や自分たちの生活を改めて振り返り、友達の気づきと交流しながら、さらに気づきの質を高めていくことができる単元だと考える。気づきの質の高まりは、次の自発的な活動を誘発し、実際に自分たちの生活に生かしていくことへつなげることができると思われる。自分たちなり

に秋という季節の特徴や特性を生かし、幼稚園とのなかよし交流会へ向けて、遊びを考え楽しむ活動につなげていきたい。

（２）本単元における思考を高める学びの場の設定と子どもの協同的学びの姿について

本学級の児童に、今まで経験してきた秋を思い出し、秋といえど何を思い浮かべるか、アンケートを行った。多い児童で十数個、一番少ない児童が三個であった。十人以上が思い浮かべるものとして、かき、もみじ、どんぐり、くり、すずむし、とんぼ、おつきみがあり、自然に関するものが多く出てきていた。また、学校で秋みつけに行く前にアンケートを行ったため、改めて秋といえど何を思い浮かべるかと聞かれても、なかなか思いつかない児童が意外に多いことがわかった。このことは、自身の直接体験や周囲との情報交換がなければ、児童にとって秋はまだ無自覚な段階の気づきであると言える。そこで、気づきの質を高めるために、二つの場を設定することに焦点をあて、本単元を構成する。一つは「拡散的な思考の場」と「生産的な思考の場」を設定していきたい。そしてさらにそれぞれの思考の場において「個で活動する場」と「集団で活動する場」を設定する。それぞれの思考を高める学びの場を仕組むことにより、「拡散的な思考の場」と「生産的な思考の場」の二つの思考を使うことができるようになり、より気づきの質が高まった状態となるはずである。とりわけ、集団で活動する場は、児童が気づきの質を高めるための協同的な学びの姿が見られるものと思われる。具体的にはまず「個で活動する拡散的な思考の場」で児童らはアンケートや、秋みつけに出かけ見つけたものをカードにかく活動により、一人一人が春や夏と比べ、今までになかったものを選びかいている。個の中で無自覚だったものが、秋という視点を与えることにより、自覚した気づきとなったように思う。そして、さらに思考を高める学びの場となるよう「集団で活動する拡散的な思考の場」として、友達と交流し集団で気づきを出し合う時間を設定し、気づきの質を高めていく学習展開としたい。集団での気づきの質の高まりとは、気づきが出し合われ、それらが比較されたり、分類されたり、確かめられたりすることを通して気づきを得ることである。学校や家庭で見つけてきた秋の中から、友達に紹介したいことを１つ決め、絵を使ってみんなで発表し合う。個の気づきが集団で共有された気づきとなり、関連するたくさんの情報をみんなで共有するこの活動が、集団での気づきの高まりとなる。集団で発表し合うことにより、個では気づけなかった秋に気づくことができ、視野を広げ、量的な気づきが増えると思われる。しかし、ここまでではいくら交流をしたとしても一人一人が集団に向けて発表をしたに留まるため、協同的な学びとはいえない。そこで、さらに気づきの質を高める活動として、「個で活動する生産的な思考の場」を設定したい。一人が一つずつ紹介したカードを使って、まず、自分でなかま分けをする活動を取り入れたい。自分のカードはどのカードとなかまになるだろうかなど、それぞれの気づきを関連づけ、どんななかまに分けられるか考えることが、個々で思考を高める活動になると考える。ここで大切にしたいことは、「気づきが一人一人の認識である」ということである。自分はこう見える、自分はこう感じるけれども、他の友達は違うかもしれないというレベルの気づきをたくさん見つけさせたい。そして最後に、「集団で活動する生産的な思考の場」として、３、４人のグループや全体で自分の考えを話し合ったり、秋はどんな季節なのかについて話し合ったりする活動を取り入れたい。自分の体験や気づきだけで判断するのではなく、友達の体験や価値観も取り入れながら判断する場となり、より多面的な見方を身につけ、気づきの質を高めていくことができると考える。主観的な考えもあると予想されるが、認識として覚えるのではなく、かかわったり体験したりする中で得た自分自身の気づきを大切にすることが、いずれは科学的な認識に結びついていくだろう。みんなで意見を出し合いながら、一つ一つの個の気づきが関連づけられたり、一般化されたりした気づきとなり、秋の特徴や特性を生かした活動を自発的に考えることができたならば、まさに協同的な気づきの質を高める学び合いができたと思いたい。そして、１１月に行う幼稚園児とのなかよし交流会へとつなげ、秋の

ものを使って楽しく工夫した展開となるように支援していきたい。

3 単元目標

○自然の中で、諸感覚を使って季節を感じようとしたり、友達と一緒に遊びを楽しんだりして いる。
(関心・意欲・態度)

○様々な感覚を使って季節をさがしたり、見つけたことや楽しかったことについて、絵や文で 表
したりすることができる。
(思考・表現)

○秋の素材を利用して遊びを考えたり、遊びに使うものを工夫して作ったりすることができる。
(思考・表現)

○自然とふれあう中で、季節の移り変わりや季節の特徴に気付くことができる。(気付き)

4 学習計画(全10時間)

第1次 あきをさがそう

第1時 さんぽにでかけよう パート1

第2時 どんなむしがいるかな

第3時 さんぽにでかけよう パート2

第2次 あきをみつけたよ

第1, 2時 みつけた秋をしょうかいしよう

第3時 あきってどんなきせつかな (本時)

第3次 あきとあそぼう ～なかよしこうりゅうかいにむけて～

第1時 なにをしてあそぼうかな

第2, 3時 なかよしこうりゅうかいのじゅんぴをしよう

第4時 みんなであそぼう

5 本時の学習について

(1) 本時目標

みんなで紹介し合った「あき」を関連づけながらなかま分けをし、秋という季節を生かしたなかよし交流会を開くことへの意欲をもつことができる。

(2) 準備 あきみつけカード(掲示用・自分用)

(3) 本時の展開(○教師の意図 ◇協同的な学びへの支援 ◆個の探求への支援)

学 習 活 動	教 師 の 意 図・支 援
1 前時をふり返り、自分が考えたなかま分けについてグループで話し合う。 ・おいしいあき ・きれいなはっぱ ・あきのむし	○ 自分で考えた分け方をグループで話し合い、付け加えをさせたり、なぜそう分けたのか理由を言い合ったりして、様々な分け方があることに気付かせたい。 ◇ 前時に友達の発表を聞きながら、自分なりに関連づけてなかま分けをしておき、すぐにグループの話し合いに入れるようにしておく。 ◆ それぞれのなかまに名前をつけさせ、自分の考えたなかま分けについて、理由が言えるようにしておく。 あきは、どんななかまわけができるかな。

2 グループで話し合ったなかま分けを発表する。	○ グループで話し合った際、なかまになりにくいカードや分け方が違ったカードを中心に、なぜそう分けたのか理由を話し合わせ、みんなで共感しながら考えを深めさせたい。 ◇ 児童の主観的ななかま分けもあると思われるが、それも認めつつ、他のなかま分けの良さにも気付かせるようにする。 ◇ 黒板に児童が描いたカードを貼っておき、実際にカードを動かしながらなかま分けをし、視覚的にも分かりやすくしておく。
3 秋はどんな季節なのか、考える。 ・いろいろなみかなるきせつだな。 ・みどりいろだった木のはっぱが、きいろやあかいろになって、おちばになっているよ。 ・むしたちも大きくなって、たまごをうむきせつだよ。	○ みんなで考えたなかま分けをもとに、秋はどんな季節なのかを考えさせ、さらに気付きの質を高めていきたい。 ◇ 例えば、秋に見つけたバッタやカマキリがなぜ茶色くなったのかを児童に問うと、木や草の葉の色が変わってきたことと関連づけることができると思われる。季節が移り変わる中で、春や夏と比べて、どんなところが変わったのか、みんなで分けたなかま分けをもとに、意見を出し合いながらつなげることにより、秋という季節の特徴や特性をより明確にしたり、科学的な見方や考え方の基礎を養ったりする場となるようにしたい。
4 なかよし交流会ではどんな遊びをした いか考え、発表する。 ・どんぐりごまがつくりたいな。 ・きれいなはっぱをつかって、あそびたいな。	○ 11月に予定している幼稚園との秋のなかよし交流会では、どんな秋を使って、どんなことがしたいか考えさせ、秋のよさを自分たちの生活に前向きに生かしていけるような態度を養いたい。 ◆ 黒板に貼ってあるカードを見ながら、身近にあるものを使って、どんな遊びができそうか考えさせたい。
5 本時のまとめをし、次時への見通しをもつ。	○ 次時になかよし交流会の計画を立てることを伝え、みんなで楽しく遊ぶことへ期待をもたせ、本時のまとめとする。